学校で防災教育に取組んでいる、
または、これから取組みたいと考えている“教職員”や、
学校における“防災教育をサポートしたいと考えている方”へ

防災教育の指導や実践、
学校と地域が連携をするときに、
“ちょっとだけ参考になる”

コーディネートの実践事例と“ワクワクする”体験型防災学習プログラムの紹介

防災教育チャレンジプラン

【2015年度　防災教育チャレンジプラン助成事業　成果報告書】

平成28年2月

NPO法人
ふるさと未来創造堂

この事例集は、防災教育チャレンジプランの支援を受けています。

目次

1．学校における防災学習のサポートをしたいと考えている皆さんへ ---------- 2

① 学校教育における防災学習実践の弊害となるモノ・コト ---------- 2
～学校・教員の悩みごとから～

② 防災教育実践時に、学校が求めている人って？
関わる上で最低限知っておいてもらいたいコト ---------- 3

③ 妄想シミュレーション【学校・地域が連携した防災教育編】
～学校・地域が連携した防災教育を継続している実践事例から～
「学校と地域をコーディネートして、
実践可能なプログラムを検討しましょう！」---------- 4

④ 実践事例　中越市民防災安全大学（防災士資格取得養成講座）
における試験的研修講座（実践プログラム番号②） ---------- 7

2．防災教育に取組む、またはこれから取組みたいと考えている教職員の皆さんへ --- 13

① 実践事例　新潟県内の学校・地域・家庭・行政・社会教育施設・企業等と
連携した“ワクワクする”体験型防災学習の紹介 ---------- 15

1)新潟市鳥屋野地区公民館（実践プログラム番号①） ---------- 15

2)新潟市立笠木小学校 ---------- 21

3)新潟市立升潟小学校（実践プログラム番号③） ---------- 27

1．学校における防災学習のサポートをしたいと考えている皆さんへ

① 学校教育における防災学習実践の弊害となるモノ・コト
～学校・教員の悩みごとから～

学校側のニーズ	地域側のニーズ
・学校の計画は既に決まっており、防災教育を組込む時間数の確保が難しい。 ・地域と連携することへの不安及び負担感が大きい。地域連携が目的化すると辛い。 ・県防災教育PGを活用し、まずは学校内でどのような力を育むのかを確立させ、地域や行政がサポートしてくれる体制が望ましい。 ・既存の学校行事や教科に防災を組込み、地域ぐるみで防災意識を高めたい。どのような可能性があるのか知りたい。 ・講師や被災体験談を話せる人材を紹介してほしい。 ・子どもが学んだことを生かせる活動計画例や体験活動メニューが知りたい。 ・他校での実践事例を知りたい。 ・活動内容や発達段階に応じた教材がほしい。 ・避難訓練のマンネリ化を改善したい。 等	・地域で防災意識を高めるために、学校経由で子どもやその保護者に地域の防災訓練への参加を促してほしい。 ・自主防災会のメンバーのほとんどは高齢者。若手の消防団は平日日中はみな仕事でいない。災害が起きたら、地元にいる若手は中学生のみ。中学生は地域の防災リーダーなので、地域の活動に学校側が理解を示し、関わってほしい。 ・小・中学生が地域の防災を学べるような講座を実施してほしい。 ・町内単位での行事が少なくなり、マンションも増えた。交流もなく、地域内の子どもの顔もわからない。安否確認できない。 ・小・中学生を巻き込んだ防災活動をやりたい。何をやればよいかわからない。 等 NPO法人 ふるさと未来創造堂

上の図は、平成27年4月～6月にかけて、新潟県内の小・中学校15校及びその学区内の地域を対象に教員、地域教育コーディネーター、地域の自治会等、行政の防災部局の方を集め、学校と地域が連携した防災教育をどのように進めていくとよいか話し合った際の一部です。

学校からは、“防災を題材に学習を進めたいので学校の取組に協力してほしい”という意見、地域からは“地域の課題を解決するために、地域の活動に子どもとその保護者を参加させてほしい。”学校からも協力をしてほしいといった意見は出てきますが、具体的なお互いのニーズを満たす win-win な提案にまで発展する様子は、学校と地域だけでは見いだせないケースがほとんどでした。

既に学校・地域の良好な関係性が構築できているケースももちろんあり、その場合には防災に限らず様々な学習時に地域との連携した活動が展開されています。しかし、そうでない学校からは「そもそも“学校が地域と連携するための調整自体負担が大きい”。そこに新たに“防災教育”もやるとなると“負担が倍増する”。」という意見が多くみられました。

地域に根差した防災教育の重要性はだれもが認識している。

しかし、地域連携するメリットよりも負担感と不安感が大きいと感じている学校が多い。

つまり、①地域との信頼関係を構築することへの負担感と不安感②連携することでの子どもたちへに対する教育効果が高まるイメージが描けていないことが推察できます。では、それはなぜなのでしょうか？（なぜだと思われますか？）

② 防災教育の実践時に“学校が求めている人”って？
関わる上で最低限知っておいてもらいたいコト

今までに学校から講話等を依頼されたとき、授業者の教員から伝えてほしいと頼まれた内容ではなく、自分が伝えたいことを優先して話してしまったことはありませんか。10 分間で被災体験談を話してくださいと言われたにもかかわらず、大幅に時間をオーバーしてしまったことはありませんか。

子どもの年齢（発達段階）に応じて理解できる内容と情報量には差も限界もあります。話し手の伝えたい思いは大切ですが、例えば小学生の子どもが集中してお話しを聞ける時間は、5 分から 10 分が限界です。いくら大切なことであっても、理解できない言葉、イメージのつかない状況、そして許容量を超えた情報量（知識）は、子ども自身の力の育成にはつながりません。依頼された時間と内容をオーバーした結果、当初 45 分間で想定した授業が、お話しの整理と振り返りで倍以上の時間が必要になってしまうケースも少なくありません。学校にはそのような経験を持つ方は必ずいて、いわばトラウマのような苦い経験をされているのです。だから、不安なのです。

防災教育に限った話ではなく、学校教育に関わりたいと考えている人は、“学校・教員の良き理解者”であり、子どもたちの成長を支える“同じ志を持つパートナー”でなくては信頼関係を築くことはできません。そして、その信頼関係があってこそ、様々な教育活動・地域活動の教育効果を高め、その結果、連携が少しずつ促進されていくのだと私は思います。

学校における防災教育実践時に、学校が地域や外部に求めている人について、前頁対象の 15 校にヒアリングをしたところ、以下のような意見を聞くことができました。

学校が求めている人

“防災の専門的な知識を持っている人”とよりも、

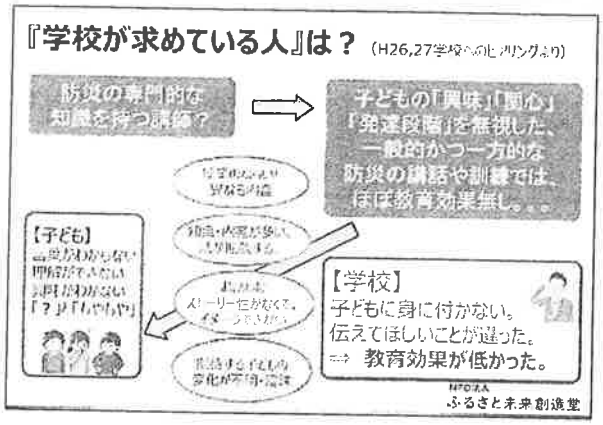
①学校に寄り添い、子どもを育てる思いを共感し合える人
（学校の教育目標や目指す児童・生徒像の理解、本学習のねらい等）

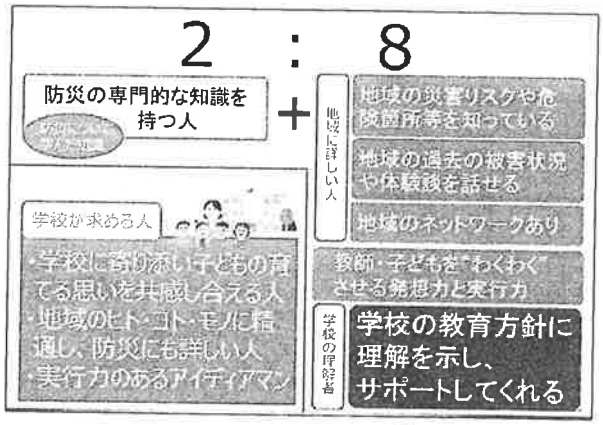
②地域のヒト・コト・モノに精通し、学校・地域のハブ役を担える人

③過去の地域での災害や防災にも詳しい人

④実行力を具えた、教師も子どももワクワクさせてくれるアイディアマン

全部は無理でも、このような意識をもった人がかかわってくれるのであれば、地域との連携を考えたいという意見は全 15 校共通でした。





③ 妄想シミュレーション【学校・地域が連携した防災教育編】

～学校・地域が連携した防災教育を継続している実践事例から～

「学校と地域をコーディネートして、実践可能なプログラムを検討しましょう！」

以下は、学校から地域の防災士や自治会に「地域の方連携して防災教育に取組みたい。どのような学習機会が考えられるのか。プログラムを検討したいので、アドバイスをしてほしい。」という話があり、開かれた実際の打ち合わせ時の内容です。学校と地域のニーズ（意見・要望）は下の表のとおり。学校主体の活動に地域が連携したプログラムの検討には至らず、あるべき論のみが交わされ、話し合いは平行線です。

この本を手に取ってくださった「あなた」は学校教員でも地域の防災関係者でもなく、学校から当日の話し合い開始の直前に、学校の取組に対する地域からの賛同を得られるように合意形成のプロセスをサポートするコーディネート役を任さました。

さて、双方の合意形成の場をどのようにコーディネートしますか？

この頁をコピーし、各ニーズを切り取って、A3 用紙等に整理してみましょう。

学校のニーズ

- 学校の避難訓練マンネリ化。訓練に向けて子どもの意識を高めたい。
- 地域に根差し、自分の命は自分で守る子どもを育てたい。
- 子どもは地震も水害も未体験。恐怖のみではなく、リアリティのある体験活動がよい。
- 地域の人や地域資源を活用した「防災教育」の活動メニューを知りたい。
- 低学年と高学年では理解力に差がある。同じ内容では理解できない。
- 子どもに災害を自分事としてとらえさせる活動とは？

地域のニーズ

- 訓練をやる「意味」と防災に関する「言葉」を理解させる。
- この地域で起こる災害は地震と洪水がメイン
- 避難訓練を真剣にやってほしい。地域の防災訓練に保護者と参加してほしい。
- 災害ごとに避難行動は違う。覚えさせるために繰り返しやらせることが大切
- 災害はいつくるかわからないから普段から防災意識を高めなければいけない。
- 地域の訓練と同じように、防災の講話を聞かせればわかると思う。

話し合いが始まり１時間経過。双方一歩通行な状態。あなたならどう切り出す？

.....

.....

.....

.....

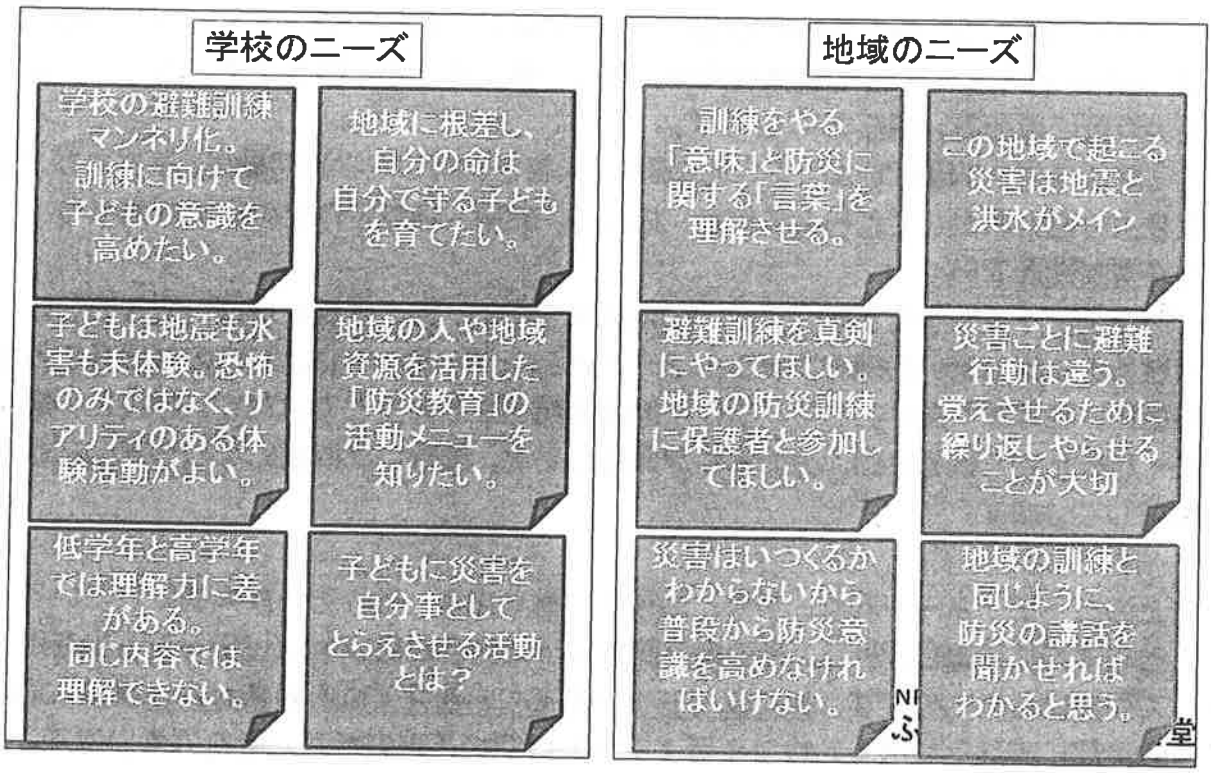
参考　私は話しあいの趣旨と意見交換内容が可視化されていないため、議論する視点がずれてしまったり、拡散してしまうのだと思い、その場で付箋紙にそれぞれの意見をメモして整理しました。

① お互い目指す方向はほとんど一緒なのですが、学校が知りたいことに対する地域の回答差、目標へのアプローチ及びそれぞれの自由な発言を取り違えていることから合意形成ができずにいることが見えてくると思います。

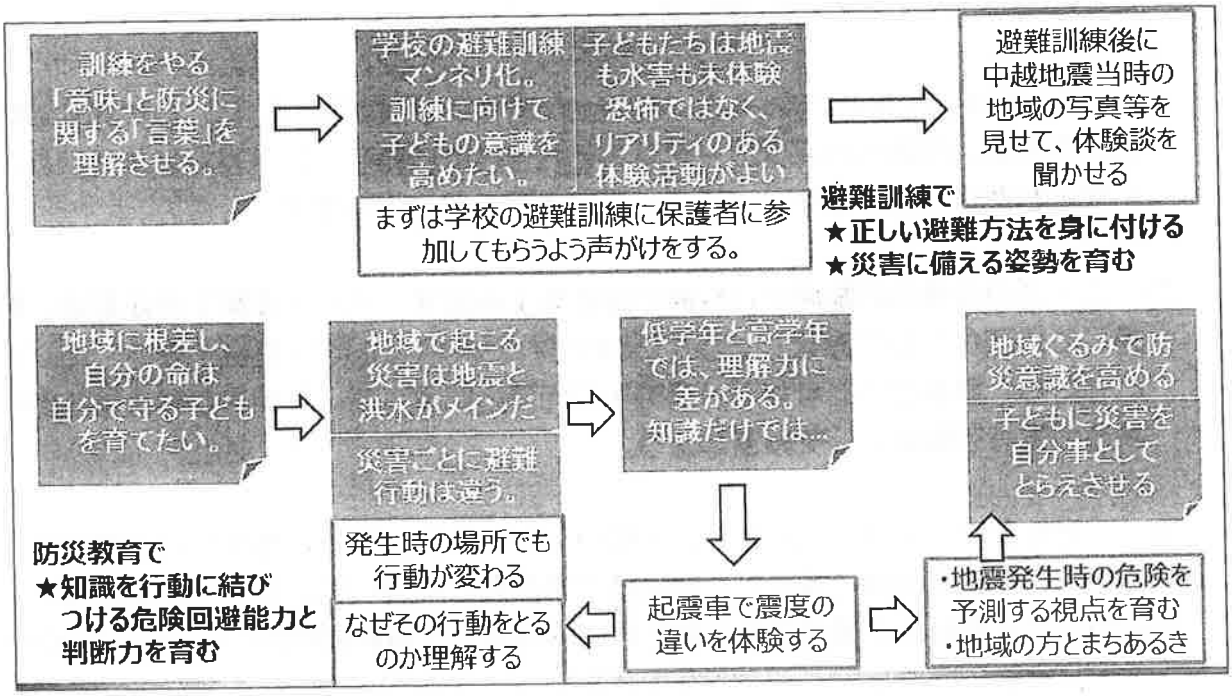
② ニーズの共通項の整理から共通の認識を生み出す“双方が理解できる言葉に翻訳して言語化”してみましょう。“それぞれが大切にしたい思い・願い”と“子どもたちに育みたいと考えている力”の可視化によって、参加者が考えるための共通の視点を明確にしてみましょう。

③ “それぞれが大切にしたい思い・願い”と“子どもたちに育みたいと考えている力”を共通で認識できたことが確認できたら、実現にむけて“何ができるか・どのような取組みが考えられるか”具体的な活動を補助発問的に問いかけながらニーズ実現に向けたアイディアを引き出していきましょう。

④ アイディアを実現できる形に落とし込み、話しあい全体をまとめましょう。
例：防災学習を通して、子どもたちには〇〇が大切だと気づいたり、その実現のために何ができるのかを考えさせることから、〇〇のような力を育みたい。そのために、〇〇のような活動が考えられるし、地域では〇〇のようなサポートができそうだ。〇〇さんの協力も得ると〇〇のようなこともできそうだ。



参考　その時に実施した、話し合いの交通整理・それぞれのメッセージの“翻訳”から、双方が共感に向かうプロセスづくり・実践可能なプログラムの検討結果



双方の中核的なニーズ“地域や学校で防災訓練をやる本当の意味を理解させたい”“地域に根差し、自分の命は自分で守る子どもを育てたい”の実現に向けて、地域の特性、地域人材・資源の活用から発達段階に応じた子どもへの防災教育プラン立てをすることができました。

白抜きの四角がニーズの実現に向けて新たに提案された内容です。兎角話しあいの場で様々な意見が飛び交いますが、可視化して整理をするだけで実現に向けた具体的な提案につながります。

この学校区では、毎年学校と地域の“願いの共有と共感の場”を設定し、地域に学び、自分の命を自分で守る意識を高め、地域一体での安心・安全なまちづくりとして防災教育に取組み、現在３年目です。

「地域連携」が目的ではなく、地域資源・人材と連携した学習活動は、子どもが“災害をより自分事としてとらえる機会”になる。結果、地域全体での意識が高まり、より連携が進んでいく。

防災をテーマに学習する“子どもの力を育むため”に、学校と地域、お互いなにができるのか話しあいの場のファシリテートとコーディネートは、双方の共感を生み出すため、毎年繰り返すことで、学校と地域の関係性が先生とではなく、学校との関係性・方針として残るため、主の先生が異動しても、継続した取組になりやすいことを実感しています。

※上のコーディネート例は、学校と地域の実態や規模、それぞれが大切にしていることを事前に調査し、当日、その場で聞き取った内容からファシリテーションを用いて引き出したものです。あくまでも１例であり、答えではありません。学校・地域の実態に応じたサポートやコーディネートに関わる際の参考になれば幸いです。

④ 実践事例　中越市民防災安全大学（防災士資格取得養成講座）における試験的研修講座

【実践プログラム番号：　②　】

タイトル	防災士取得希望者への防災教育サポーター研修
実施月日（曜日）	平成 27 年 8 月 29 日（土）
実施場所	新潟県長岡市　ながおか市民防災センター２F
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏　　名：中野　雅嗣 所属・役職等：NPO 法人ふるさと未来創造堂　常務理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	所要時間：1 時間 30 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	2
活動目的※5	１０（学校・地域における防災教育サポーターの育成）
達成目標	自分にできることを資源に、子ども向けのプログラムの検討
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①防災の分野で、自分にできることを細分化して整理させる。 ②４人１組のグループで、それぞれができることをシェアさせる。 ③グループのメンバーができることを組合せて、2 時間程度のストーリー性のあるプログラムを考えさせる。
準備、使用したもの **・人材** **・道具、材料等**	道具：自己分析用ワークシート、A３用紙数枚・プロッキー８色×グループ数分
参加人数	65 名
成果と課題	【成果】 ・防災士の取得を目指す人に対し、子ども向けのプログラムを考えさせることで、資格取得後に目指す各自の目標を持たせることができた。 【課題】 ・コーディネーターが介在し、プログラムの一部を担う語り部や体験学習の指導であれば活用の可能性はあるが、単独で学校に入る、指導を行えるようになるためには更に研修が必要
成果物	・当日の研修プログラム ・自己分析用ワークシート ・アンケートの集計結果

【当日の研修プログラム】

次ページ以降のパワーポイント資料のとおり

新潟県の防災教育
～防災教育実践事例の紹介と
今、学校に求められている人とは～

NPO法人
ふるさと未来創造堂

スライド01

新潟県の防災教育に関する取組

スライド02

新潟県が目指す防災教育

新潟県防災教育プログラム
【授業編】5領域

【防災教育を通して目指す児童生徒像】

スライド03

新潟県が目指す防災教育

新潟県防災教育プログラム
【校庭内ガイド編】16領域

防災教育で最も重要な事は"継続"すること！

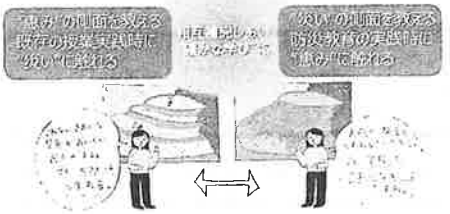
スライド04

教育活動全体を通じて、児童・生徒の"災害から生き抜く力"を育む

新潟県防災教育プログラム
【授業編ガイド編】22領域

自然の二面性（"恵み"と"災い"）の全てを、防災教育の枠組みだけでカバーしようとしない。

授業時間の増加



スライド05

防災・防犯・安心安全な暮らしは，共通の課題

学校

防災（共通課題の検討）をきっかけに
地域・家庭と必要に応じた連携の在り方を考え，
"教育活動全体の質的向上"を目指しましょう。

地域　家庭

ふるさと未来創造堂

スライド06

スライド07

- 「調整役」が不在または調整困難なため、各々のニーズが一方通行止まり。
- 連携すれば相乗効果を発揮する機会も、実践に至らない現実。

学校・地域における防災教育のサポーターやコーディネーターの力を！
- 総合的な相談窓口　・学校と地域の調整補助
- プログラム制作や実践のサポート　等

スライド08

<ケーススタディー>
長岡市日越地域　学校・地域連携による防災教育の推進サポート例

スライド09

～茶豆の里・そしてグラウンドは黒埼のビックスワンです～

新潟市立黒埼南小学校の取組

- 決して無理はしない。
- 負担を軽減し，最大限の教育効果を追求する。

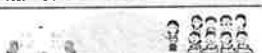
地域と連携し，既存の行事に"防災を添えた活動"を"全学年合同"で実施する

NPO法人
ふるさと未来創造堂

スライド10

～茶豆の里・そしてグラウンドは黒埼のビックスワンです～

新潟市立黒埼南小学校の防災教育



学校

地域　家庭

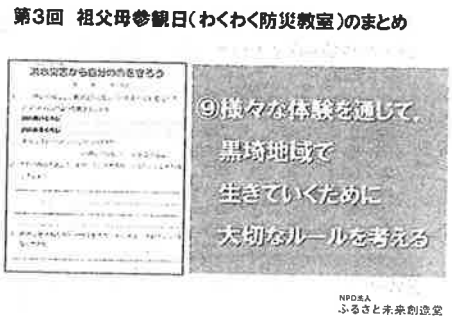
ふるさと未来創造堂

スライド11

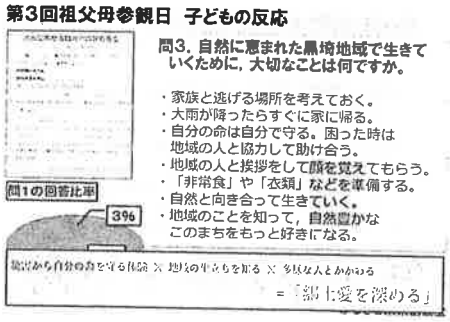
黒埼南小学校の防災教育

スライド12

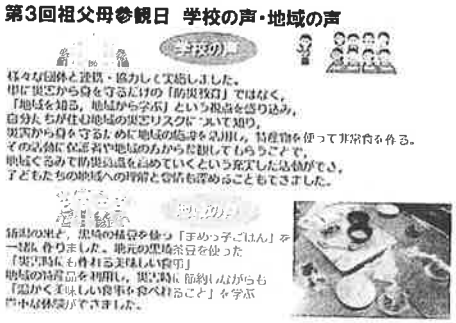
スライド13



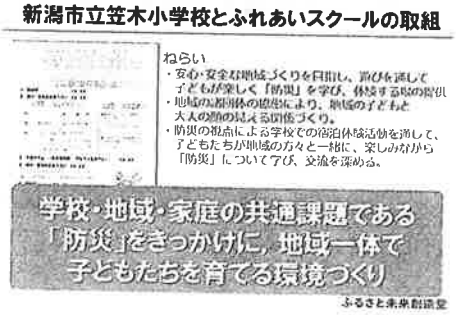
スライド14



スライド15

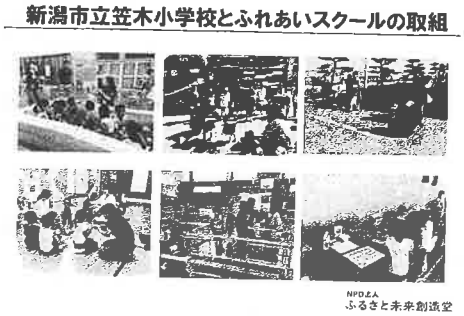


スライド16



スライド17

スライド18



スライド19

スライド20

スライド21

スライド22

スライド23

スライド24

新潟市立笠木小学校とふれあいスクールの取組

わかったこと（子どもの反応）

※役の学校保護のみ抜粋

- 初めてわかったことは、いつも勉強している教室も、地震が起こると危険なのが、本だな、テレビ台、窓ガラスなどたくさんあるということです。（4年）
- 学校は安全な場所より危険な場所が多いと思った。その中でも体育館が一番安全だとわかりました。（2年・5年）
- 学校内もきけんなところが沢山あるけれど、家の中も危ない。安全な場所を探して、いざという時に、避難するところを決めておきたいです。（3年、6年）　等

『危険を予測する視点』を身に付け、日常生活に生かそうとする学習機会に。

ふるさと未来創造堂

スライド25

新潟市立笠木小学校とふれあいスクールの取組

おうちや地域の方からの感想（家庭の声）

- とても良いイベントだと思った。楽しみながらもたくさんの事が学べたと思います。消防署エリアに興味津々でした。
- 給水エリアもあり、高学年が時間を上手に使いながら、リーダーシップを発揮していました。低学年でも無理なく進められたと思います。
- 様々な体験を通じて、大人も考えさせられた。日頃から災害にそなえることの大切さを再認識した。
- 来年も楽しみにしています。　等

家庭・地域の防災意識向上の機会に！

ふるさと未来創造堂

スライド26

中越市民防災安全大学を卒業し，学校の防災教育で『みなさんにできること』は？

スライド27

中越市民防災安全大学を卒業したみなさんに，『学校が求めていること』は？

スライド28

個人ワークをします（15:55～16:05）

スライド29

グループワークをします（16:05～16:20）

- 机の前後でグループを編成
- 1グループの人数4～6人
- 机の向きは変えずに椅子のみ
- 以下のグループワークキットを配ります。

【グループワークキット】

- **プロッキー×1人1本　※黄色以外で**
- **A3用紙×各グループ2枚**
  ※1枚はグループでの話し合いの共有用
  もう1枚は、発表に使用

NPO法人 ふるさと未来創造堂

スライド30

グループワークをします（15:55～16:33）

グループワークの流れ

「進行役」と「書記役」を決めてください。

①それぞれが記載した「やりたいこと」「その理由」をグループで共有する。（1人1分間）

②書記役は、発表を聞きながら「やりたいこと」「その理由」をA3用紙（共有用1枚）に書き出す。

③やりたいこと（アイディア）を組合せて、地域が運営主体となって実施できる、2時間程度の「防災教育」活動プランを考えて、A3用紙にプランを書き出してください。

スライド31

グループ発表　（16:20～16:35）

シェアリングタイム（15分間）

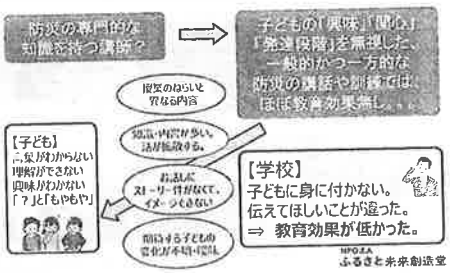
・グループで話し合った活動プランを，発表します。

- 発表役を決めてください。
- 複数プランがある場合はメインの活動を選んで
- 「1分半」で発表
- 気づいたことはA4の個人シート裏面に記入

NPO法人 ふるさと未来創造堂

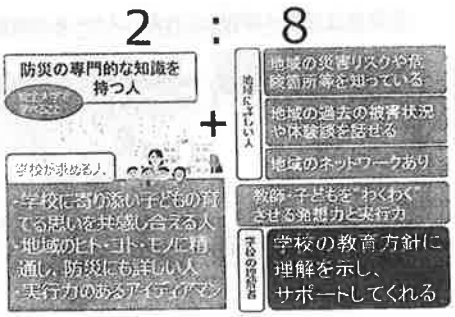
スライド32

『学校が求めている人』は？（H26,27学校へのヒアリングより）



NPO法人 ふるさと未来創造堂

スライド33



スライド34

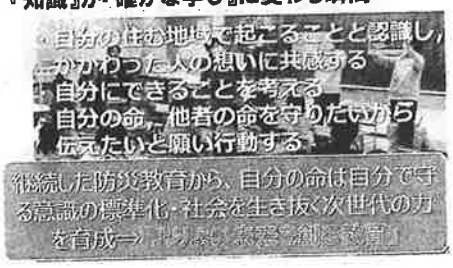
- 「調整役」が不在のため、各々のニーズが一方通行止まり。
- 連携すれば相乗効果を発揮する機会も、実践に至らない現実。

防災教育の推進・定着に向けて

学校・地域をつなぐ、コーディネーター育成を！
「防災教育」は教員だけでなく、「防災士」や「社会教育主事・公民館主事・地域教育コーディネーター」等も腕のみせどころ！！

スライド35

子どもが防災をテーマに学んだ『知識』が『確かな学び』に変わる瞬間



スライド36

【グループワークで使用した自己分析用ワークシート】

平成 27 年 8 月 29 日/NPO 法人ふるさと未来創造堂

学校防災教育の推進のために、私にできること

受験番号＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1．以下の防災教育に関する活動の中から、自分にできることに「○」印、できそうなことに「△」をつけてください。いずれもメインの**対象は、小学生もしくは中学生の子ども**です。

	防災ゲーム		防災クッキング		防災グッズづくり
	音楽（唄）・ダンス		紙芝居		劇・寸劇
	自然体験（キャンプ等）		親子向けの防災講座		
	その他	【その他の内容】			
	避難訓練・児童の引渡し訓練		応急担架・応急手当		防災訓練（図上訓練等含む）
	初期消火訓練・放水訓練・バケツリレー		避難所の設営や体験訓練（図上訓練含む）		救助訓練 着衣泳
	避難行動要支援者のサポート・安否確認		炊き出し訓練・非常食づくり体験		家庭の家具固定方法や非常用持ち出し品の確認
	その他	【その他の内容】			
	過去の地域で発生した災害と被害を伝える		被災体験談を話す		地域内の危険箇所を伝える危険箇所の標識づくり
	学校の地域巡検（まち歩き）に同行指導		防犯防災マップ作成・防災ハンドブック作成		災害時の地域と学校の連携体制づくり
	過去の災害等の記録集・かべ新聞づくり		災害ボランティア 福祉ボランティア		義援金集め
	その他	【その他の内容】			
	地震体験車や煙体験ハウスの活用		各種実験により自然災害の現象を再現する		災害関連施設の紹介や案内・施設を活用した講座
	その他	【その他の内容】			

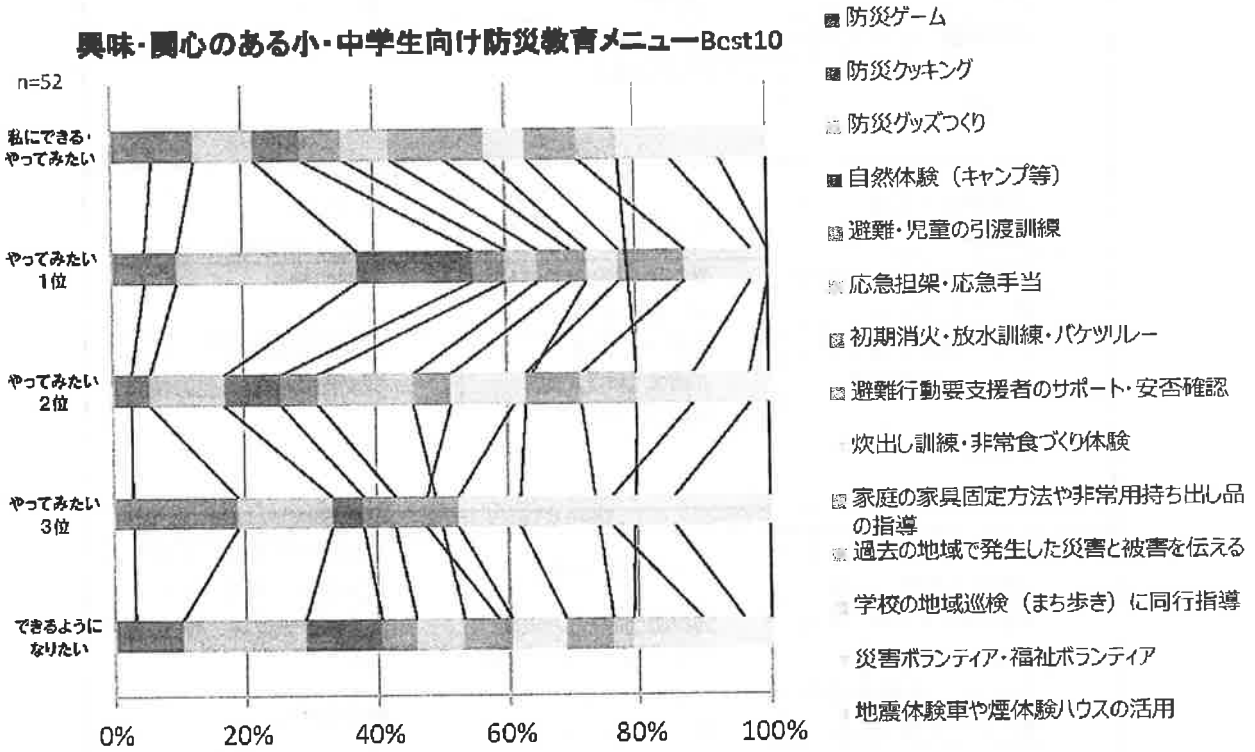
2．１で記載した、小・中学生の子どもに対して「自分にできること（○）」「自分にできそうなこと（△）」の中から、自分のやりたいことベスト３とその理由を以下の表に記載して下さい。

第１位		
第２位		
第３位		

【アンケート（ワークシート）の集計結果】

“出来るようになりたい”と回答件数の上位５位はいずれも学校だけで取組むには難しい体験学習内容であり、サポーターへの学校ニーズは高いものです。

とはいえ、いきなり学校現場での活躍は難しい。学校教育と連動した社会教育分野での活動による相乗効果は期待できると感じ、資格取得後に教育ファシリテーター・コーディネーター研修等にて、教育分野についても学びながら経験を積むことで、サポーター・コーディネーターとして活躍する可能性もあると感じました。



『今後、小・中学生を対象に“できるようになりたい”Best5』

1．防災グッズづくり
2．自然体験活動（キャンプ等）
3．学校の地域巡検（まち歩き）に同行指導
4．炊き出し訓練・非常食づくりの体験
5．家庭の家具固定・非常用持ち出し品の指導

体験活動メニューの指導や地域活動時のサポーターは、学校のニーズも高い。
学校が主となった防災教育実践時のサポーターとしての活躍が考えられる。

⇒

教育分野の方、地域に精通している方等、既にコーディネーターとしての資質を持ち合わせている方も。
防災教育実践コースや教育ファシリテーターのような研修（OJT等）で経験を積むことで可能性も…

ふるさと未来創造堂

2．防災教育に取組む、またはこれから取組みたいと考えている教職員の皆さんへ

2015年度防災教育チャレンジプラン実践団体として、本年様々な団体と連携して実現させることができた、教師も子どもも“ワクワクする”体験型防災学習プログラムを紹介します。

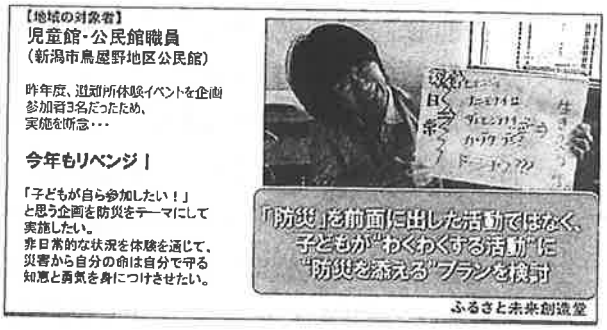
“ワクワクする体験型防災学習プログラム”という言葉を耳にしたとき、違和感を覚える方はいませんか。

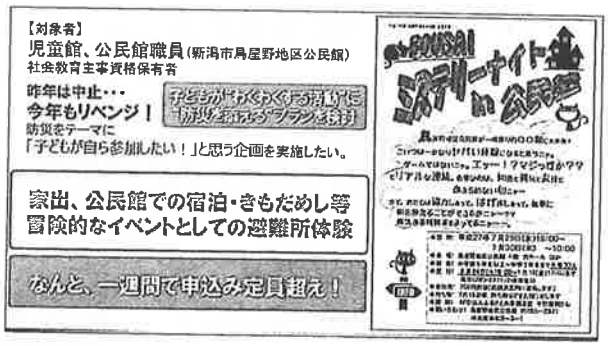
学校における避難訓練では様々な合言葉があり、「お・か・し・も・す・き」もその一つです。

お…おさない、か…かけない（走らない）、し…しゃべらない、
も…もどらない、す…すばやく、き…きんちょうして

そのとき命を守るためにとるべき行動と心構えが、覚えやすい標語になっていて、子どもたちの避難の約束になるものです。

生命への危機が及んでいるその瞬間、ワクワクする人間は絶対に存在しません。かけがえの無い命を守るための訓練だからこそ、真剣に取組まなければならないのは至極当然のことです。





では、なぜ、命を守る防災教育で“ワクワクする体験型防災学習”を提案するのか。

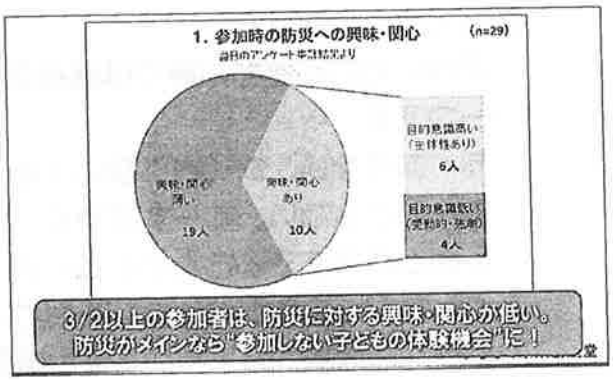
理由は２つあります。

１つ目は“防災”が、非日常的なものと思われ、辛く、悲しく、暗い印象を持ち、教育として追求したいと思えるテーマには設定されにくいという意見や、被災体験の無い人に、自然災害を“心から”自分事としてとらえさせる事の難しさから学習への追求意欲が高まらないといった声を伺うからです。

命を題材にした課題を与えたとき、どれだけ自分事としてとらえさせる事ができるのか。自らもっと学びたい・学ばなければならないと、子ども自身に興味・関心を持たせることができるのか。防災に限らず、よりよい未来を創造していくために、自分にできることを考え、追求し、実行に移すことができる人を育めるのか。学校教育だけではなく、社会教育や家庭教育においても“解決しがたい課題に正対し、自ら学び、考え、行動する”ことは非常に重要な要素です。そのために絶対に欠かせない“子ども自身の主体的な学習意欲”を育む第１歩として、“興味・関心を高めるワクワク”はなりえると、日々の実践を通じて感じているからです。

２つ目は“防災教育”には絶対的な正解や解決策が存在しないがゆえに、学習題材を自分事としてとらえる事が出来た時、防災ではなく減災という視点から、教育の持

つ貢献力の高い学習として様々なクリエーションとイノベーションを生む機会になり“自分たちが創るよりよい未来にワクワクする”学習の可能性を持つからです。

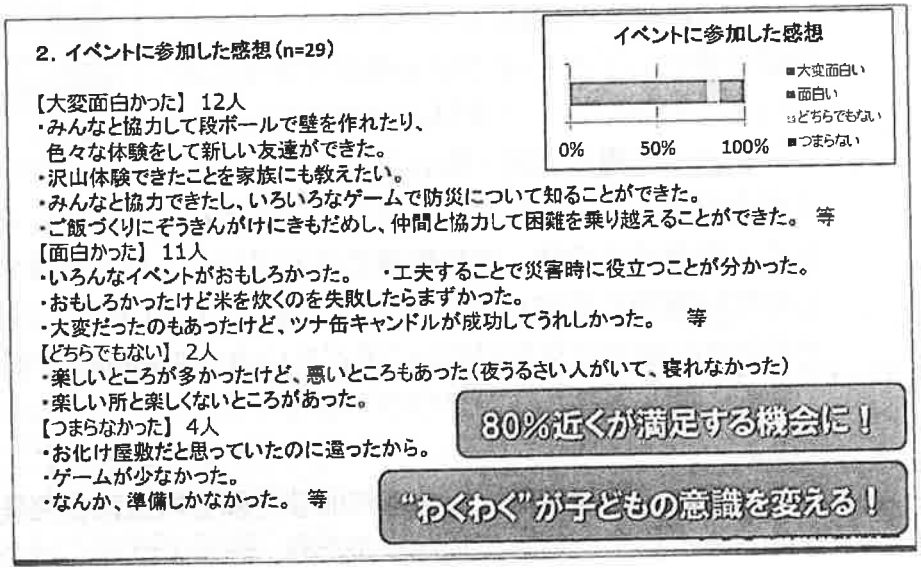


自分の命を自分で守るために、今の自分にできることは何か？家族も友人も地域の人の命も守りたい。どうしたら自分たちが災害に備えていない大人の意識を変えることができるのか？今はできないこともあるけれど、将来の自分にはできることがもっとある。よりよい社会を実現するために、人の役に立つ大人・地域に貢献できる大人になりたい。等、防災教育は自然災害から、“かけがえのない命を守るための学習”にとどまらず、自分の生活している地域をより深く知る機会から“深い郷土愛”を育み、将来、生まれ育った“地域に貢献しよう”と現代社会における様々な解決しがたい課題に果敢に挑み、“よりよい地域社会を創造していく、かけがえの無い人づくり”の機会にもなりえるのだと私は信じてやみません。

“自分の生き方や役割について考え、行動するワクワク”には、熱い思いで“人の心を動かす力”を持ち、“あきらめ”から“少しでも”と人が“行動を起こすきっかけ”を生み出し、その小さな連鎖が、自然災害による被害を軽減する自助・共助が標準化される社会の中核を形成していくのではないでしょうか。

以上の理由から、当法人は、四季折々の自然に恵まれた日本人として、防災教育は、人が劇的な変化を繰り返す現代の社会を生き抜くために必要な“総合的な人間力を育む教育”の一つとしてとらえ、“ワクワクする防災教育”をその第一歩としておススメしたいと考えています。

子どもだけでなく、大人の無関心層や熱しやすく冷めやすい方にも、一生涯使える“今日からの自分の命を自分で守る防災教育”を標準化していくアプローチの一つとして、“ワクワクする”という言葉に込めた当法人の本質的な願いに、１人でも共感して下さる方がいらっしゃることを、心より願っております。



①新潟県内の学校・地域・家庭・行政・社会教育施設・企業等と連携した“ワクワクする”体験型防災学習プログラムや研修会プログラムの紹介

ここからは、当法人がコーディネーター（講師も兼ねる）として関わり、学校と地域等が連携した実践事例の一部を紹介いたします。単独で実施できる内容やアイディアには限界があります。それぞれが大切にしたい思いの共感から、得意分野を生かし合い、一緒にプログラムを創り上げていくプロセスは“ワクワク”し、連携による相乗効果をそれぞれが実感し、持続可能な連携した取組みとして定着していく可能性を感じています。連携を考える際の参考になれば幸いです。

１）新潟市鳥屋野地区公民館　【実践プログラム番号：　①　】

実施した事業名：防災ミステリーツアーin 鳥屋野地域公民館

タイトル	社会教育主事・公民館主事を対象とした防災教育指導者 OJT 研修
実施月日（曜日）	平成 27 年 7 月 10 日（金）、7 月 29 日（水）
実施場所	新潟市鳥屋野地区公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏　　名：中野　雅嗣 所属・役職等：NPO 法人ふるさと未来創造堂　常務理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	所要時間：打ち合わせ 2 時間（7 月 10 日）、実践 6 時間（7 月 29 日）
プログラムのカテゴリ、形式※4	1、13、17（社会教育現場での学習）
活動目的※5	9
達成目標	災害発生を想定して、仲間と協力して 1 日を過ごす
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①家出して野宿 1 泊をイメージさせて、1 日を過ごすために必要な物を持参させる（非常用持ち出し品に置き換える） ②グループを編成して、大災害が起こったときに起こることを知り、課題を明らかにする。 ③使えるものの工夫から、乗り越えるための方法を考え実践させる。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	人材：社会教育主事・公民館主事・地域教育コーディネーター 道具：段ボール、ガムテープ、ひも、はさみ、マッチ、カセットコンロ、缶詰食品、ビニールぶくろ、ティッシュ、飲料水のペットボトル等、日常生活で各家庭にあるもの
参加人数	36 人（内 7 人スタッフ）
成果と課題	【成果】 ・体験プログラム例が出来上がり、次年度は今年度の OJT 研修対象者が講師になり、プログラムを実践予定 【課題】 ・防災に関する指導面と子どもの思考を引き出すスキル面はサポートが必要
成果物	7/29、30 イベント当日の活動プログラムとアンケート結果

【イベント概要のチラシ】

平成27年度 鳥屋野地区公民館 主催事業

HOUSAI ミステリーナイト in 公民館

鳥屋野地区公民館が一晩限りの〇〇館に大変身！

こいつは～かなりヤバい体験になると思うニャ。

ゲームではないニャ。エッ～！？マジっすか？？

とリアルな連続。必要なのは，知恵と勇気と友情と

あきらめない心ニャ～

さて，君たちは協力しあって，はげましあって，無事に

朝を迎えることができるかニャ～？？

勇気ある挑戦者をまってるニャ～～。

INFO

◆日　時：平成27年７月29日(水)16:00～
　　７月30日(木)　～10:00
◆会　場：鳥屋野地区公民館　４階　大ホール　ほか
◆対　象：小学校５年生以上～中学３年生まで先着30人
◆受　付：６月24日(水)9:00～７月10(金)17:00まで
　　電話(285-2371)か直接窓口
◆参加費：700円前後(受講決定時に連絡します)
◆持ち物：７月15日頃、持ち物などをお知らせします
◆講　師：NPO法人ふるさと未来創造堂　中野雅嗣さん
◆問い合わせ：鳥屋野地区公民館　☎285－2371
　　中央区新和3－3－1

【当日の実施プログラム】

防災ミステリーツアーin鳥屋野地域公民館　実施計画書　　作成：新潟市鳥屋野地区公民館　協力：NPO法人ふるさと未来創造堂

29日　スタッフのミッション・・考えて行動してもらうような関わり（答えを教えない），気付きを促す問い，共に学ぶ

時間	会場	内容	詳　細	その他
時間の流れ	4階ホール			ねこの目に反射テープを貼り館内に張る
15:30		受付　　参加費・同意書提出 領収書準備 班はくじ引き	参加費・同意書を忘れたら，保護者に連絡し持参していただく 班分け　中学生5人なので5班 学年ごとにくじ引き　1班6～7人	廊下に受付　くじ引き ダンボールを無造作に積んでおく 模造紙，不要ポスター，ブロッキー 養生テープ，鉛筆，セロテープ，マジック
16:00		講座スタート 挨拶・趣旨説明 講師紹介 以降講師主導で進める	くじ引きのタイミングは受付時 ※①、③、②、④の順で進める予定	ランタン　ブルーシート　新聞紙 生活用水2リットル×2本（班で） 水飲食用500ミリ×3～4本
		①避難所の生活　其一 ～困りごと編～	実際被災したときの様子の見聞 →ひとつひとつの必要性がわかり納得して参加できるようになる	ランタン8こ 大人からのルール ○使っていい物 使っていいものを全部置いておく
		②防災自治子ども会の立ち上げ	→話し合いのルール・立ち上げの方法 自己紹介？組織？必要な係？ルール作り？時間表作り 班編成？陣地決め？など決める	×入ってはいけないところ 禁止すること，ところに表示 ※時間表もこの時間帯は大人が企画する旨など伝える
		スリッパ作り	スリッパ作り・ホール用，トイレ用（新聞紙かダンボール） ホール・トイレではスリッパ	※生活のルールとしてホールはスリッパ使用を導き出す
17:00		③持ち物見せ合いっこ →なぜ持ってきたかなど話し合う	班ごとに見せ合う　→アイスブレイクにもなる ※スマホ・ゲームは　電池切れですので回収します。 避難所に行くときに必要な持ち物クイズ	プロジェクター・コードリール
17:30		④班の陣地・寝床の作成 ※ここまででたっぷ時間が必要	女子の寝場所や着替える場所への配慮の視点を引き出す ダンボールで寝床・しきり	ダンボール・養生テープ 少なくとも一人大1枚，仕切り用とら
		●避難所の生活　其二 ～食事編～	避難所での食事，食べることの話 ローリングストック法，栄養のこと	
	3階	調理実習室へ移動	最初に話す	カセットコンロ・トング
18:00	調理実習室	調理実習 ・共通メニューアイラップご飯 じゃがりこサラダ	ここにある食器は明日の朝も使うよ！ 生活用水・食事用の水はこれだけ チラシでお皿を作る・牛乳パックでスプーンを作る	サランラップ・アイラップ・チラシ・缶切り ごみ袋 乾物・缶詰めを使ったものを
18:30		・チャレンジメニュ乾物サラダ ・試食：おかゆ，乾パン，リッツ	共通メニューはレシピを渡しやってみる 乾物・缶詰めチャレンジメニューは放っておく ツナ缶ランプ・アルミ缶ランプを作る	自分たちで食べ方から考える ツナはサラダに入れる アルミ缶・カッター・油性マジック
18:00 19:30		食事（調理実習室） 片づけ 4階ホールへ移動		ラップを使用することに気がつくような問いを立てる
20:00	4階ホール 全館	クイズラリー＆きもだめし	防災クイズを館内のポイントに設置．解きながら，まわる 最後にキーワードを並べると場所がわかり，そこからペットボトルを持ってくる数パターン作成。班単位	クイズ作成（ふるさと未来創造堂） シート作成（鳥屋野地区公民館）
20:30				
21:00		寝る準備　着替え　　歯磨き	水のいらないシャンプー　歯磨きティッシュ　ボディーシートで体をふく	
21:30		振り返り 日記の記入	今日の振り返り・まとめ 避難所で寝る前にやっていること，リラックスするものなど紹介 （絵本でも，歌でもリラックス法など）	
22:00		寝る スタッフ振り返り 講師　帰る		

30日

時間		内容	詳細	その他
6:00		起床 着替え・身支度・洗面 体温あてゲーム・実測・健康観察	体温計	体温計
6:30		ラジオ体操		
7:00		朝ごはん	救援物資が届いたが 野菜ジュースはあるがパンやおにぎりが人数分足りない設定 →分け合うことの大切さをおさえる	
7:30		片づけ・掃除 ダンボールをたたむ	施設内清掃を兼ねて、①子どもたちの雑巾がけレース	ぞうきん
8:00		にゃ～ごを探せ 防災工作タイム	②にゃ～ごを館内から回収，班対抗枚数を競う。 75リットルビニール袋でカッパ作成 代用品クイズ・・これで何ができる？	日常生活を工夫する視点，あえて創造・想像する
8:30		役立つ情報コーナー	伝言ダイヤル・布を使った応急処置	伝言ダイヤルのリーフレット
9:00		振り返り	一言づつ話してもらう	
9:30		アンケート・日記記入	アンケート提出後解散	
10:00		解散		

【実施プログラムの様子】

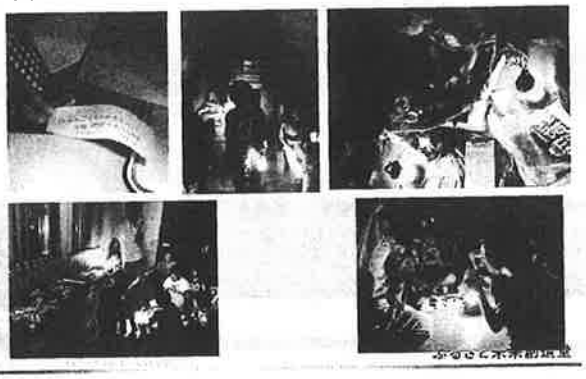
実践報告(H27年3月～)

○地域の実践サポート

実践報告(H27年3月～)

実践報告(H27年3月～)

実践報告(H27年3月～)



【参加者アンケート結果　※抜粋】
開催日　平成２７年7月２９日、３０日　　参加者２９人　　回収数２９枚

■ミステリーナイト・公民館は？

◎大変おもしろかった（１２）
・みんなと協力して段ボールで壁を作れたり、色々なことができたから
・色々なことを体験できたから・にゃーご様を探す時など１位になれたから
・みんなと協力できたしいろいろなゲームがあったから　・ぞうきんがけにきもだめし
・仲間と協力して困難を乗り越えたから
○おもしろかった（１１）
・いろんなイベントがあっておもしろかった。・色々役に立つことが分かった
・いろいろ見れたから・おもしろかったけど米？水？がまずかった
・おもしろかったけど、大変だったのもあったから・楽しかったが少し難しかった
△どちらでもない（２）
・楽しいところが多かったけど、悪いところもあった
・楽しい所と楽しくないところがあったから。
×つまらなかった（４）
・特にゲームなどがなかったから　・準備しかなかった　・お化け屋敷だと思った

■今回の体験で一番楽しかったことは何ですか（理由は？）

・きもだめしクイズラリー（ドキドキしたし、水がもらえたから）
・夜に段ボールの上でねたこと
・宝さがしとクイズラリー（みんなで協力してクイズなどといたから）
・夜ごはんつくり
・ポテトスナックサラダ作り（すごくおいしかったし、じゃがりこでカンタンに作れるから）
・クイズラリー「防災クイズ」（防災のことが分かったから）
・料理作り（わからない米の炊き方とか、じゃがりこがサラダになるとか協力してできることがごはんになってすごいなと思いました）
・暗い中でのごはん作り（すごく楽しかったから、みんなと協力できたから）
・きもだめし　アンド　クイズ（少しこわかったけど、楽しめたからです）
・段ボールでしきり、ねること
・きもだめし（班長がこわがっておもしろかった・班の人と仲良くなれた・わくわくした等）
・ツナ缶ランプ（災害時役立つし、面白かったので良かった）
・クイズラリー（災害の事も学べて楽しくできた）
・クイズラリー（クイズをやって災害がおこった時どうすればよいか分かったから）
・寝る時（楽しく休めた・新しい班の友達とお話ができたから）
・料理（キャンドルづくり）
・クイズラリー（一番やる時間がなかったけど、ゲームはそれしかなかったから）
・夜のトイレ（ドキドキしたから）
・段ボールで仕切りを作ったり、好きな形を作って寝たこと（友達とねれた）
・カベこわしたこと（スッキリした）　等

■今回の体験で一番悩んだことや難しかったことは何ですか。（理由は？）

・男子と女子のしきりを作るとき（どういう形でしきりを作るか、けっこうなやんだ。男女を分けるしきりをつけると、どうしたら下がってこないかいろいろ分からないことがあったけど、考えてみんなで解決した）
・水の使い方（水の量が限られていたから）
・水と電気が使えないこと（水が飲めなくて辛かった、電気がつかなくて暗い）
・ツナ缶のキャンドル作り（マッチをつけてもなかなか火がつかなかったり、すぐ消えたから）
・段ボールのベッド作り（いいベッドを作るのに苦労したから）
・寝ること（段ボールが固くてつらかった。寝にくかった。寝れなかった）

・ごはん作り（最初はもう暗くて、どう工夫しようか困った。暗くて体力を失った）
・ねれなかった（なれないはじめての場所だったから）
・ねたこととおきたこと（はやくおきてもやることがなかった）
・暗い所にはいること（こわかった）
・料理作り（米を作る時がめんどくさかった）　等

■災害の時に役に立つと思ったことは？（理由？）

・きもだめしクイズラリー（クイズがためになったから。すごく役立つ問題が書いてあったから。災害時どうすればよいか分かった）
・水（水がないと死ぬ。水の大切さがわかった）
・料理（缶詰めやおかしを使って作れたから）
・料理（食べ物がないと生きていけないから）
・食べるもの（はらがへったら何もできない）
・自分で米をたいたこと（米を食べれるようになる）
・ツナ缶ランプ（初めて知ったから。あたたかく、明るくて長持ちするから。マッチとツナとティッシュだけで火がつけれる。災害の時は暗いときもあるから（停電）役に立つと思った。）
・段ボールでしきり作り（段ボールのカベがないと男女困るからです）
・段ボールで寝たこと（少し幅が厚くて大きいから）
・ドライシャンプー（水がいらないから）　等

■参加しようと思った理由は？

・小学校の友達が参加していたから
・いろんな人と交流するため、災害が起きたときに何をすればいいか知るため
・楽しそうだから。防災のことが分かるから。　・去年から興味を持っていた
・防災のことを知りたかったから　・防災のことを知らないから
・これからの生活に役立てて災害の時に役立てたいから参加した
・楽しそうだったから　・おもしろいと思った
・公民館の人の話を聞いていておもしろそうだったから
・親が勝手に入れた　・お母さんが強制的に行けと言ったから
・お母さんが行けばと言ったから　・家族に言われたから
・お母さんに防災のこと全く知らないから行けと言われたから
・友達に誘われて楽しいかな？と思ったから　・夏休みがひまだったから
・ミステリーナイトと書いてあって、心霊系は楽しそうと思ったから　等

■感想や意見など自由記述

・今回の体験とっても楽しかったのです
・来年も開催してほしい
・災害のときどうすればいいかいろいろと知ってよかったです
・いろいろなことがたくさん体験できてすごく楽しかった
・今日はどうもありがとうございました。大変なこともあり、楽しかったこともあったのでよかったです。本当に災害が起きた時は。今日のことをいかして、役に立ちたいです。
・次はニャ～ゴ様ではなく、ワンコ様で少し違った企画をやってほしいニャ～！！
・楽しかったニャン　・おもしろかった
・学校では防災訓練はあるけど、このような（ミステリーナイト）体験ができて良かった
・班の人は全員男子で女子がいなくて、なかなか仲良くなれなかったけど、きもだめしで仲良くなれて良かった（男子ばかりでいやだったけれど楽しかった！）
・楽しかったが、ざんねんな連中がいた　・違う小学校が寝る時うるさかった
・きもだめしをもっともっとこわくしたほうがいい
・このミステリーナイトに参加できてよかった。自分では知らなかったことなどがわかった
・とてもべんきょうになった。でも、きもだめしにお化けが出なかった
・また、もう少し違ったものに参加したいです　等

2）新潟市立笠木小学校

実施した事業名：にじいろ防災キャンプ　～笠木あそぼうさい～

【イベント概要のチラシ】

～みんなで楽しもう！楽しく学ぼう！～

「にじいろ防災キャンプ」
～笠木あそぼうさい～

<平成27年8月8日(土)～9日(日)>

【1日目】8月8日(土)

1　開会式　14：00

2　昼の「笠木あそぼうさい」14：15

【第1部】～楽しく学ぼう～

★ボールプールクイズ	★救急処置法体験
★消防自動車見学	★水消火器訓練
★ちびっこ消防士体験	★防災学習迷路

☆ドリンクコーナーを兼ねて、「防災カフェ」を開設します。ご自由にお飲みください。
☆「防災カフェ」では、非常持ち出し品のサンプルを展示します。休憩の際に是非ご覧ください。

【第2部】～防災工作～

★段ボールシェルターを作ろう！
学校が避難所になったことを想定し、段ボールをつないでできるシェルターを作ります。できあがったシェルターで実際に宿泊体験もします！

★ツナ缶キャンドルを作ろう！
災害時の停電対策と非常食にもなる「ツナ缶（シーチキン）」キャンドルを作ります。

3　夕食タイム　～非常食体験：「アルファ化米カレー」～　18：00

4　夜の「笠木あそぼうさい」19：00

【夜の防災教室】～防災ミステリーツアー～
★安全な場所を探しながら、夜の学校たんけんに出発！

5　閉会式　20：30

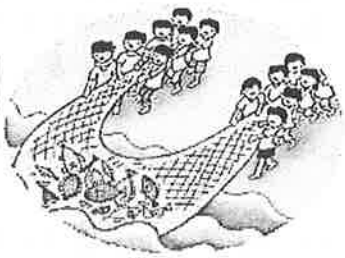
6　就寝（宿泊者）　21：00

【2日目】8月9日(日)

7　起床（宿泊者）→片付け・現地移動　5：30

8　海の「笠木あそぼうさい」　6：00

【海で楽しもう】～親子で地引き網にチャレンジ！～
★親子で地引き網体験を通して、海の恵みや楽しさを実感するとともに、海での安全な行動についても学びます。



9　朝食　8：30

10　現地解散　10：00

【当日のプログラム】

平成 27 年 7 月 31 日
NPO 法人ふるさと未来創造堂

平成 27 年度　にじいろ防災キャンプ～笠木あそぼうさい～
防災講座企画案

1　実施日時　平成 27 年 8 月 8 日（土）15：45～17：45（第 2 部）19：00～20：30（第 3 部）

2　実施会場　新潟市立笠木小学校　体育館　他

3　実施のねらい
（1）安心･安全な地域づくりを目指し、遊びを通して子どもたちが楽しく「防災」についての知識を学び、体験する場を提供する。
（2）地域の諸団体、学校、公民館、社会福祉協議会等の協働により、地域の子どもと大人の顔の見える関係づくりを目指す。
（3）笠木小学校「ドリームプロジェクト事業」の一環として、防災の視点による学校での宿泊体験活動を通して、子どもたちが地域の方々と一緒に、楽しみながら「防災」について学び、交流を深める。

4　参加対象　笠木小学校児童・保護者及び未就学児・地域住民等
※中野小屋地区への地域回覧により、広く参加を呼びかける。
※活動支援ボランティアとして、中・高校生等にも参加を呼びかける

5　活動の概要
【８月８日（土)】：笠木あそぼうさい（１日目）

時間	内容	
15:45 (120)	**★笠木あそぼうさい【第２部】～防災工作～** ＜講師＞中野 雅嗣 ①段ボールシェルター ②ツナ缶キャンドル	担当：笠木小学校
19:00 (90)	**★【夜の防災教室】～防災ミステリーツアー～** 「もし、学校が避難所になったら…」 ＜講師＞NPO法人ふるさと未来創造堂 常務理事･事務局長　中野 雅嗣	担当：笠木小学校

6　活動の詳細
（1）笠木あそぼうさい【第２部】～防災工作～　15：45～17：45

ねらい
・災害時にはいつもどおりの生活ができないことを確認し、身近なものを工夫して活用する方法を知り、災害時を乗り切る体験をする。
・普段から家庭で災害に備えておく大切さを知る。

①段ボールシェルターづくり　15：45～16：35　（50分）

②ツナ缶キャンドルづくり　16：45～17：35　（50分）

＜笠木あそぼうさい【第２部】～防災工作～活動の流れ＞

※展開①及びまとめ終了後に各10分休憩を入れます。

導入 （8分）	※縦割り班での活動を想定 １．地震について知っていることを問いかける ２．写真資料を確認しながら、強いゆれの地震が発生すると、普段どおりの生活が送れないことを確認する ３．身近にあるものを工夫して使うことで災害を乗り切る方法を体験することを伝える	【準備するもの】 ・地震によるまちの被害に関する写真とライフラインが使えないことで困っている様子の写真 ・プロジェクター、スクリーン、延長コード 【想定される答え】 ・怖い、ケガをする、死ぬ ・津波がくる ・立っていられない。 ・家や道路が壊れる ・山が崩れる　等 【予想される児童の反応】 ・家の中に入れない。 ・電気、ガス、水道、電話が使えない ・家族に会えないかも ・余震、津波がくるかも ・1人で避難するのは心配等
展開① （42分）	３．段ボールシェルターづくりの実演を見て作り方を知り、班で協力して段ボールシェルターを作る ※班内で高学年と低学年、中学年同士を二人一組でペアになって作ると円滑に進みやすい。	【準備するもの】 ・段ボールシェルターの作り方に関する資料 ・大き目の段ボール ・ガムテープ ・段ボールカッター ・プロッキー（マジック）
展開② （40分）	４．ツナ缶キャンドルづくりの実演を見て作り方を知り、班で協力してツナ缶キャンドルをつくる ※班内で高学年と低学年、中学年同士を二人一組でペアになって作ると円滑に進みやすい。 ※ツナ缶に穴を空ける作業は思いのほか力が必要なため、低学年は高学年にお願いするのが望ましい。 【相談事項】	【準備するもの】 ・ツナ缶キャンドルの作り方に関する資料 ・ツナ缶（大豆油漬けのもの） ・缶切り（穴あけ付きのもの）またはアイスピック等ツナ缶に穴を空けられるもの ・ティッシュペーパー

	○実際に火をともす活動はこの流れの中で実施してよいでしょうか。	・マッチまたはチャッカマン
まとめ （10分）	5．体験した感想やわかったことを発表させ、普段どおりの生活ができない時には「工夫することの大切さ」を押さえる 6．普段からの家庭での備えが大切な事を伝え、資料を配布して、自分の家の備えを確認してくることを伝える	【準備するもの】 ・防災グッズチェックリスト（きおくみらい作成）

（2）笠木あそぼうさい【第３部】もし、学校が避難所になったら…　19：00～20：30

ねらい

・災害の時には笠木小学校が避難所になることを知る（確認する）
・地震から自分の身を守る安全な場所として、３つのない（落ちてこない・倒れてこない・移動してこない）場所を知る
・縦割り班で夜の避難所（学校）を探検し、暗い室内の移動を体験させる。
・危険箇所と安全な場所を確認し、自分たちの班が寝る場所を考える

＜笠木あそぼうさい【第３部】もし、学校が避難所になったら…活動の流れ＞

※展開①終了後、10分休憩を入れます。

導入 （8分）	※縦割り班での活動を想定 1．写真資料やイラストを確認しながら、強いゆれの地震が発生すると、学校内で地震が起こった時の危険箇所と身の守り方を確認する 2．中越地震を例に「地震は１回では収まらないこと」から、「避難所に到着した後にも強いゆれが続くことがあること」「寝ている時間にも地震が起きる可能性があること」を押さえる 3．笠木小学校が避難所になることを伝えて、寝ているときの余震に備えて、学校内の安全な場所を調べることを伝える	【準備するもの】 ・プロジェクター、スクリーン、延長コード ・校内の場所別の写真 教室・廊下・体育館など ・災害時の避難所の写真 ・校内の平面図（探検ルートが記載済みもの） ※探検ルートは学校側で事前に決めていただけると助かります。 ・探検バック　・筆記用具 ・付箋紙またはシール（2色）　・懐中電灯
展開① （32分）	4．資料を配布して、学校内の安全な場所を調べる際のチェックするポイントを知り、地震から身を守る安全な場所として「３つのない場所」を押さえる	【準備するもの】 ・校内のチェックリスト ・「３つのない場所」に関する資料 （上記２点は未来創造堂で

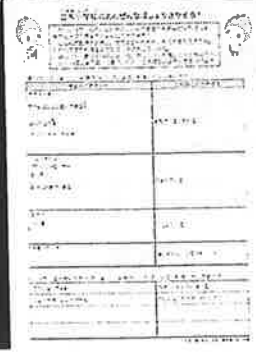
	5．平面図の探検ルートを確認しながら校内を探検させて、危険箇所は○色、安全な場所は○色の付箋紙（またはシール）で平面図に張り付けていくことを伝え、班ごとに調べさせる	作成し後日お送りします。）
展開② （35分）	6．探検終了後に平面図に張り付けた付箋紙（またはシール）を再確認し、危険箇所にはなぜ危険かを書き込ませる 7．探検を通じて分かった安全な場所の中から自分の班が寝る場所を相談させる 8．班ごとに探検してわかった安全な場所と自分の班が寝る場所について発表し、寝る場所を相談する ※場所が被ってしまったときには話し合い等で決める	
まとめ （5分）	9．寝ているときでも地震から自分の身を守れるように、「３つのない場所」を確認しておく大切さを確認し、自分の家の中も確認をすることを伝える	※各班がバラバラの場所を選んだ場合には、どの班がどこにいるかを平面図に書き込ませる

【活動の様子】

新潟市立笠木小学校とふれあいスクールの取組

【第3部】
夜の学校探検

寝ているときに地震がおきても、自分の命を守れる場所を探す。



新潟市立笠木小学校とふれあいスクールの取組

【第3部】 夜の学校探検 寝ているときに地震がおきても、自分の命を守れる場所を探す。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

【子どもの反応・地域や家庭の声】

わかったこと（子どもの反応）

※夜の学校探検のみ抜粋

- 初めてわかったことは、いつも勉強している教室も、地震が起こると危険なのが、本だな、テレビ台、窓ガラスなどたくさんあるということです。(４年)
- 学校は安全な場所より危険な場所が多いと思った。その中でも体育館が一番安全だとわかりました。(2年・5年)
- 学校内もきけんなところが沢山あるけれど、家の中も危ない。安全な場所を探して、いざという時に、避難するところを決めておきたいです。(3年、6年)　等

『危険を予測する視点』を身に付け，
日常生活に生かそうとする学習機会に。

ふるさと未来創造堂

おうちや地域の方からの感想（家庭の声）

- とても良いイベントだと思った。楽しみながらもたくさんの事が学べたと思います。消防署エリアに興味津々でした。
- 給水エリアもあり、高学年が時間を上手に使いながら、リーダーシップを発揮していました。低学年でも無理なく進められたと思います。
- 様々な体験を通じて、大人も考えさせられた。日頃から災害にそなえることの大切さを再認識した。
- 来年も楽しみにしています。　等

家庭・地域の防災意識向上の機会に！

ふるさと未来創造堂

3）新潟市立升潟小学校【実践プログラム番号：　③　】

学校と企業が連携した実践事例

タイトル	地震ザブトンを導入した全校児童対象の体験学習
実施月日（曜日）	平成 28 年 1 月 15 日（金）
実施場所	新潟市立升潟小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏　　名：中野　雅嗣 所属・役職等：NPO 法人ふるさと未来創造堂　常務理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	３コマ×４０分（※短縮授業）
プログラムのカテゴリ、形式※4	４、１１、１３
活動目的※5	8
達成目標	地震体験を通して、家庭内での危険箇所を確認し、事前にできる対策を家族と考える
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①地震発生時の危険回避の視点を思い出し，大きな地震を経験した人たちがどのように感じたかを伝える。 ②「地震ザブトン」を使って地震の揺れと室内の様子を映像と音で体験させる。（体験時にザブトンの動きと連動する映像に着目させ、家具固定のされている映像とされていない映像の地震を比較させ、室内での被害の違いに気付かせる。） ③家具固定の有効性を確認し、地震発生時の自分の家の中の危険性の確認と自分と家族の命を守るために話し合わせることを伝える。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	人材：地震ザブトンのオペレーター（白山工業株式会社の職員） 道具、材料：地震ザブトン×１、ワークシート、家庭の自助対策のチェックリスト（白山工業作成のパンフレット）
参加人数	107 名
成果と課題	【成果】 ・小学生の発達段階に応じた地震体験装置を活用した学習プログラムができた。学びをつなぐ体験の効果について、学校と共感することができた。 【課題】 ・体験装置を地方自治体が所有しているわけではないため、水平転換が現状は難しい。
成果物	・地震体験装置を活用した指導計画 ・ワークシート

【当日のプログラム】

「地震ザブトン」を使った地震・津波学習会実施計画

1　ねらい

○地震ザブトンを使って地震発生時の様子を体験をして地震による被害の危険性を理解する。

○地震災害の被害を防ぐための備えについて家族と考える。

＜キャリア教育のねらい＞

○課題や問題に対してよりよい方法を等を見つけることができる。（課題対応能力　対応）

2　実施日時　　1月15日（金）　3校時（10：25～11：05）…1・6年生（30人）

4校時（11：10～11：50）…2・4年生（31人）

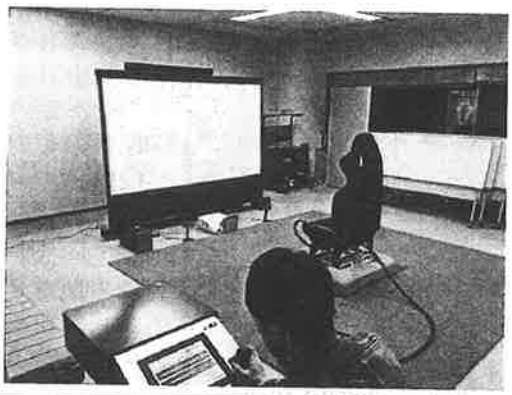
5校時（13：30～14：10）…3・5年生（26人）

3　場　　所　　プレールーム

4　指 導 者　　NPO法人ふるさと未来創造堂　常務理事　中野，白山工業様　2名程度

5　持 ち 物　　探検バック，筆記用具

6　学習内容と流れ

	学　習　内　容	留　意　点
【導入】	1 地震発生時の危険回避の視点を思い出し，大きな地震を経験した人たちがどのように感じたか知る。	・地震を体験した人たちが感じたことをパワーポイントで知らせる。
【展開】	2「地震ザブトン」を使って地震の揺れと室内の様子を映像と音で体験する。 	・一人ずつ，順番に体験する。（30～40秒） 
【まとめ】	3 体験して感じたことを発表したり，ワークシートに記入したりする。	・記入したワークシートは，家に持ち帰り家の人と地震の被害や家庭での備えについて話し合う。 ・ワークシートは，回収して次回の防災教育の資料とする。

7　事前指導

・「地震ザブトン」を使って地震を体験を一人ずつする，待ち時間がある，静かに話を聞くなど見通しをもって参加できるようにする。

8　事後指導

・廊下の棚に転倒防止の器具が付いています。何をする器具か問いかける，取り付けられている理由を教える。ワークシートの様子から参考になる取組を紹介するなど備えへの意識付けをする。

【ワークシート】

H27 升_ワークシート01
<小学校低学年：地震体験を通して、家庭内での危険箇所を確認し、事前にできる対策を家族と考える>

ねん　　くみ　　ばん　なまえ（　　）

1．大きなゆれの地しんがおこったとき、どのようなばしょでじぶんのいのちをまもりますか。“3つのない”ばしょをかきましょう。

“もの”が、①＿＿＿＿＿＿ない、②＿＿＿＿＿＿ない、

③＿＿＿＿＿＿ないばしょでじぶんのいのちをまもります。

2．地しんザブトンにのってみて、わかったことやかんそうをかきましょう。

3．かぞくといっしょにかんがえましょう。

①いえの中にいるときに大きなゆれの地しんがおこりました。どのようなきけんなことがおこるか、よそうしましょう。

②地しんからじぶんとかぞくのいのちをまもるために、どのようなことができますか。

H27 升_ワークシート01
<小学校中・高学年：地震体験を通して、家庭内での危険箇所を確認し、事前にできる対策を家族と考える>

年　　組　　番　名前（　　）

1．校舎内で地しんが起こったときにそなえて、自分の命を守る“3つのない場所”を思い出して書きましょう。

2．地しんザブトンにのって、わかったことやかんそうを書きましょう。

3．あなたは家の中にいます。家族といっしょに考えましょう。

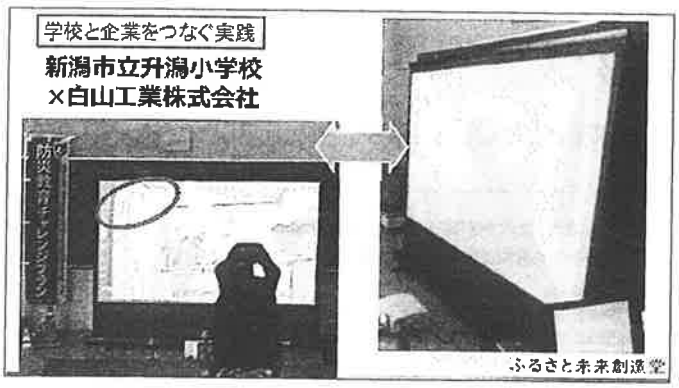
①下の場所にいるときに大きなゆれの地しんが起こると、どのようなきけんなことが起こりますか。よそうして書きましょう。

台　所

ねる部屋

②地しんから自分と家族の命を守る方法を話し合いましょう。

【実践プログラムの様子】



防災教育チャレンジプラン

この事例集は、防災教育チャレンジプランの支援を受けています。

自ら未来を切り開き、社会を生き抜くひとづくり

NPO法人
ふるさと未来創造堂

940-0034
新潟県長岡市福住 3-4-39
TEL :080-6650-8238
FAX:0258-94-4582
E-mail:nakano@cosss.jp

私たちは、わくわくする「防災教育」をきっかけに、
地域一体での教育社会の再建を目指します！

学校サポート
生涯学習、防災教育・環境教育・キャリア教育等に関する相談、
単元構成・授業案の作成・サポート、講座・授業実践、コーディネート、
教材の開発・研究、研修会の開催 等

地域サポート
地域防災力の向上を視野に入れた、人づくり・地域づくり・まちづくりに
関する講座や研修会の開催、防災に関する講演・イベント等の企画・実践 等

家庭サポート
社会教育＋防災の視点での、親子で学べ、家庭で役立つ体験講座や
研修会・交流会等の開催、イベントの企画・実践 等